

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501453		
法人名	有限会社新堂企画		
事業所名	グループホームひまわり苑上北		
所在地	〒039-2402 青森県上北郡東北町大浦字菅林116番地1		
自己評価作成日	平成26年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の一日一日を大切に一緒に楽しく笑顔で暮らせるようスタッフ皆で声掛けにて支援している。職員の大半は認知症サポーターキャラバンメイトを持っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは主要地方道に近接した閑静な敷地にあり、グループホーム内は明るく、ケアにおいても“音”への配慮をするなど職員の細かな心遣いが感じられ、利用者が過ごしやすい環境となっている。敷地内には祭り等の行事のほか、特設のゲートボール場もあり地域の人が集う場所として提供されている。同一敷地内では小規模多機能型居宅介護事業所(建物単独)も運営されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、ネームプレートに理念を携帯し常に確認しています。 朝礼時、理念・内観を確認しています。	毎年、職員間で見直しを検討されて来たが、理念は変わることなく大切にされている。精神統一としての内観と共に、朝礼時に唱和したり出勤時に確認できるよう事務室に掲示し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゲートボール大会や納涼祭バーベキュー、芋煮会にて地域の方々と交流を図っています。	敷地内に特設コートを作り年3回ゲートボール大会を主催し、家族や地域へ声掛けし交流している。町内会へ加入、また近くの小学校行事、草刈り・体操のボランティア等でふれあう場が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゲートボール大会や納涼祭バーベキュー、芋煮会の時に日常生活や行事等を報告し情報を公開しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて報告や話し合いを行いサービス向上に努めています。	2か月に1回、定例会議を開催している。毎回、行政・地区長・郵便局長夫人会・利用者・家族の参加があり、食事の評価をしていただいたり、利用者状況、感染症情報、困ったことへの協力体制についてなど話し合い地域からの声を聴く様努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、納涼祭バーベキュー、芋煮会等の行事には必ず参加していただける様に働きかけています。	会議や行事の案内は欠かさず出し、参加を働きかけ、連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については内部研修で勉強をし、スタッフ全員で話し合いながら、拘束のないケアを徹底しています。玄関の施錠は利用者様の安全を配慮し、やむを得ず行っています。	マニュアルを作成している。外部研修で得た情報を活かし内部研修の実施、実践をしている。緊急時、やむを得ない場合の拘束事例があり、家族への説明、同意書ももらっている。また、スピーチロックがないよう日々、注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部研修を行い対応しています。スタッフにストレスなどが無い声を掛け合い虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて学ぶ機会を設けています。必要な方には支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理念、ケア方針などを説明し利用者様、家族様が安心できるように取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様等が意見、要望などを話しやすいようにこちらからも伺ったりと雰囲気作りに努め、出された意見については日々のケアサービスに反映させていく取り組みをしています。	苦情受付箱を玄関に設置している。面会時やケアプラン作成時などの電話連絡時にその都度、要望を聞き出すよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが意見を出しやすいような雰囲気作りを心がけ、反映させていく取り組みをしています。	所長を含めた毎月のミーティング・カンファレンスにて職員が意見を出せる場がある。物品購入希望等は随時意見を出し、「伺い書」で管理している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに目標の設定をさせ、それに基づいた面接を実施し、向上心を持てる職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会(内部研修)や外部研修に参加し、知識と技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にて交流する場があり実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接面談を心がけ、本人の思いを聴くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で家族様の要望や思いを聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談は必ず2人以上で対応し本人と家族様に何が必要か見極めるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野では力を発揮して頂き、喜怒哀楽を共感し対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いを把握するように努め、共に利用者様を支えていくように実施しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて利用者様の馴染みの場所に出かけたりしています。	墓参りへ出掛けたり、希望により自宅近くの公園に行くケースもある。また、馴染みの方の訪問もあり対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人間関係を把握し孤立しないよう配慮し、よりよい人間関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援に応じる旨を説明しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思い、希望を把握するよう努めています。	可能な限り会話の中から思いを直接引き出すよう努めている。話せない方においても表情から思いを汲み取る様、常日頃から関わりを深くもっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や利用者様から聞き取りを行い、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するため申し送りを徹底し、把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて反映した介護計画を作成しています。	毎月ミーティング・カンファレンスを実施し、アセスメントをもとにモニタリングを行い、6か月に1回、また変化時には随時介護計画を作成し直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添い個々のケース記録に記入し、見直しの際には活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームと小規模多機能とが情報を共有、支援にあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にはボランティア団体に来苑して頂いたり、年2回の避難訓練実施にて消防署、地域住民からの協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他に体調変化時は、いつでも気軽に相談できるように実施しています。	入居前のかかりつけ医へ希望により通院している。家族の協力が得られない時は、通院送迎をグループホームで行っているが、薬受けは家族の協力も得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模機能型に看護師を配置し気軽に相談できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会にて利用者様の様子、家族様、病院からの情報を得て早期退院支援に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、家族様に話し合いをしていただき意思統一をしています。	看護師がいない為看取りは行われていないが、入居時、容態悪化時に利用者・家族と話し合いの場をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講した職員が中心となり勉強会の際に伝達を行い他の職員も理解を深めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施にて避難する方法を身につけています。また、近隣の住民の協力も得られています。	消防署立ち合いのもと年2回の避難訓練を実施している。グループホーム内での連絡網整備、近隣住民への依頼協力体制あり、備蓄(非常食糧)もある。事務室に受信装置があり、役場からの緊急連絡訓練放送が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した声掛けをし、羞恥心に配慮しています。個人情報を目のつかないところで保管しています。	排泄面での失禁時や食事での食べこぼしの際、さりげなく周囲にも配慮し尊重した声掛けをしている。職員同士互いの声掛けを意識しながら注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望の把握に努め、自己決定できる方には実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースに合わせ、その日の要望などに合わせた柔軟な支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えて頂くよう援助。希望があれば美容院などで利用者様の要望に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューはなるべく季節のものを取り入れるよう考案。利用者様の苦手な食べ物には聞いて対応します。片付けを行える方には見守りながら一緒に片付けをして頂いています。	食前には口腔体操、アイスマッサージで機能低下しないよう予防に努めている。献立は職員が考え栄養士の指導を受けている。また、職員は毎食、利用者と一緒にゆっくり食事に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分が不足しないよう常にチェックし摂取を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけを行い口腔内の清潔に努めています。自分でできない方には介助にて支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の把握をし支援しています。自分で出来ない方は自尊心に配慮しながら、排泄チェック表を元に誘導し支援しています。	利用者の自尊心に配慮しながら、ひとり一人の身体機能に応じた排泄できる様に進めている。また、個々に合わせた物品を使用、排泄表を使用し細かな排泄チェックが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動にて対応。難しい場合はかかりつけ医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日を決めてはいますが利用者様から希望があれば、柔軟に対応できるようにしています。	週2回入浴としているが希望時や受診等に合わせ適宜変更し対応している。入浴日以外に足浴も実施している。また、季節に合わせて入浴剤を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンの把握をし、不眠の方には原因の追求、必要ならば医師と相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は申し送りをし、処方内容の確認をしてミーティングの際、再度話し合いをしています。病状の把握に努め、体調に変化があればすぐにかかりつけ医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴、力量を把握し役割、楽しみを促す支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他利用者様の状況を見て、外出希望があるときにはなるべく意向に沿うように支援しています。	年間行事の他、毎月1回ドライブやショッピングなど外出を実施している。急遽の外出はあまりないが要望に応じた外出支援は随時対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には買い物時のみ財布を持っていただき、現金の出し入れの際には間違いがないか支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から贈り物が届いた際などは利用者様から直接電話でお礼を言ってもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明などはために調整しホールは季節を感じられるよう工夫をしています。又、スタッフがたてる物音や声にも配慮しています。	明るく、広い共有スペースとなっている。光が射していることで温かく利用者全員が集まってくつろげる空間となっている。静かであり職員の“音”への配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとくつろげるソファを設置したり利用者様個々のスペース作りを心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物がある場合は持ってきて頂くように働きかけています。	全居室内が明るく日差しが入るような配置になっている。木目のベッドを使っており温かく家庭的な雰囲気がある。馴染みの物を置くことで居室に個性を持たせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすくプレートやのれんで表示。手すりの設置、苑内バリアフリーにて安全な環境作りをしています。		